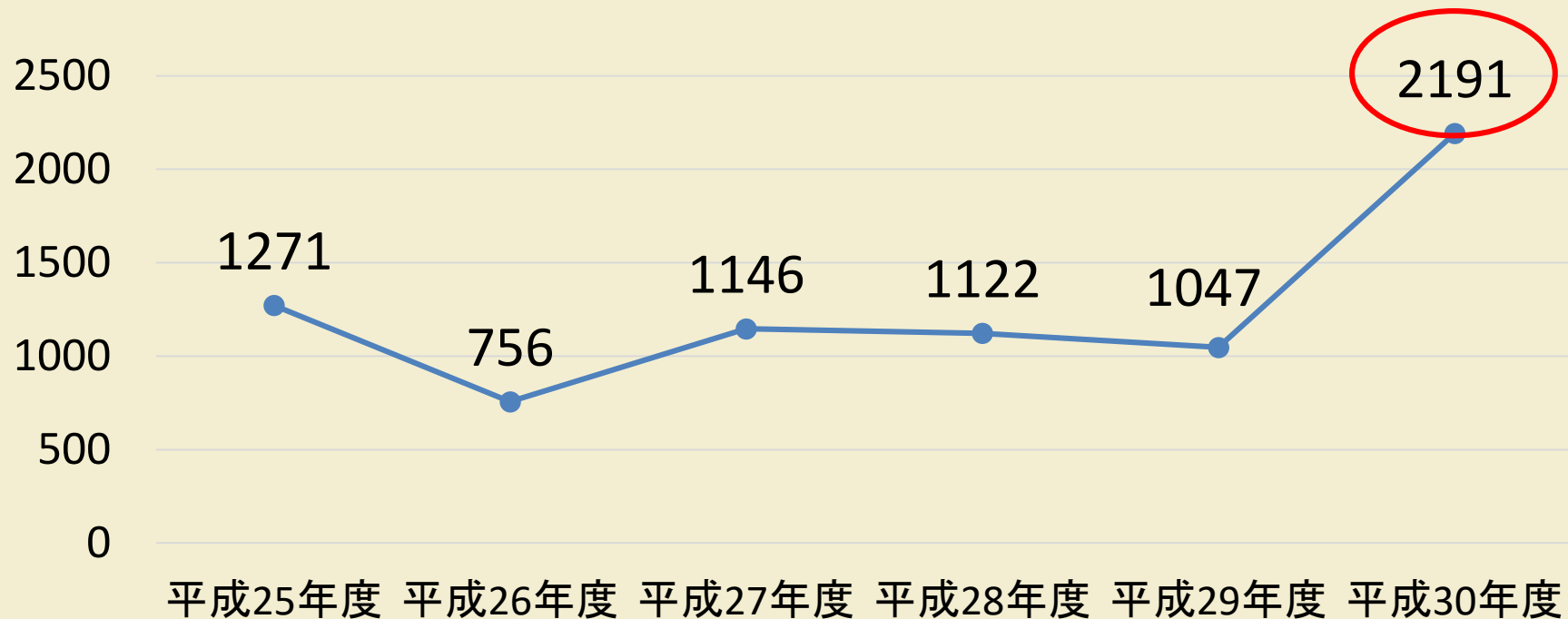


# 大阪市熱中症救急搬送患者数の年次推移



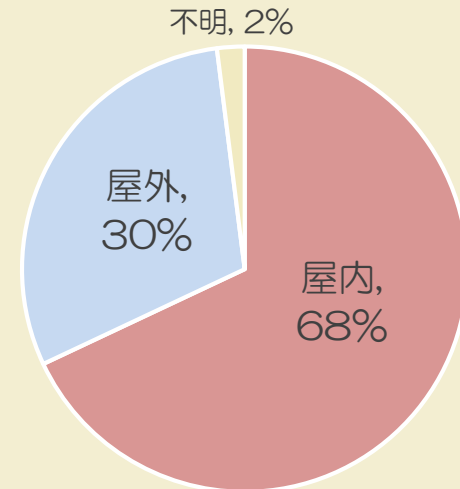
例年800～1200人であったが、平成30年度は猛暑により倍増

# 熱中症は室内でも多く発生しています

- 高齢者・乳幼児はリスクが高い
- 熱中症は室内でも多く発生
- 夜も注意が必要



## 大阪市高齢者の熱中症発生場所（H30）



**屋内が約7割**

少しでも意識がしっかりしていない場合には、病院への搬送が必要

# 熱中症予防方法

## 脱水と体温上昇を抑える

- ①暑いとき、無理をしない
- ②急な暑さに要注意
- ③のどがかわく前にこまめに水分・塩分補給
- ④薄着スタイルで、日傘・帽子の使用を
- ⑤適度にエアコン・扇風機の使用を

